

Business Report

[第84期 中間報告書]

2012.4.1-9.30

P.01-04 トップインタビュー

葬儀本来の役割を承継し、
人々の心に寄り添い、支える。
その役割を担う人材こそ当社の優位性です。

P.05-06 公益社へ葬儀依頼すると、ここが違う!

P.07-08 財務諸表

P.09-10 トピックス・会社概要

すべてはホスピタリティから。

葬儀本来の役割を承継し、 人々の心に寄り添い、支える。 その役割を担う人材こそ当社の優位性です。

代表取締役社長 古内 耕太郎

人間力を基軸に 同業他社と一線を画す

葬儀の事前相談から葬儀後のことまで——人生の様々なステージにおける充実したサポート体制が、通夜や告別式というセレモニーのみを執り行う同業他社とは一線を画す当社の特徴です。そして、これら優位性のある独自のサービスを創出し、実現しているのは、志の高い現場のスタッフだといっても過言ではありません。

葬祭業を職業に選ぶ時点で「困った人に手をさしのべたい」という高いモチベーションと使命感をもった人材が多いのですが、当社のスタッフは、お客様の要望をしっかりと聞き、わかりやすい言葉で思いを伝え、すべてにおいて相手の気持ちを察しながら行動するという基本的な人間力を備え

た優秀な人材が揃っています。入社後は、葬祭業の社会的使命や役割を学び、仲間と思いを共有することでさらに人間力を磨きます。日常的に死と向き合うことで自ずと成長が促されます。

たとえば「ひだまりの会」に代表される遺族に対するグリーフケアの取り組みも、こうしたスタッフから生まれたサービスです。当社をご利用いただいたお客様の6割以上がご利用になっている「エンバーミング」は、故人のお元気だったころのおもかげを取り戻すことで、故人の尊厳を守るとともに、遺族の心のケアにもつなげたいという思いから力を入れています。日本ではまだあまり浸透していませんが、法医学者がすでに指摘しているとおり、エンバーミングをすると、殺菌効果があるため、免疫力の弱いお子様やご高齢の方も安心してご遺体に触れてお別れができます。



葬儀本来の役割を 地域に代わって承継

当社では、葬儀ディレクターが中心となって自社の葬儀会館や地域の人々が利用する会館で、住民の方を対象とした葬儀セミナーを開催しています。これは「葬儀をどのような考え方で、どう執り行えばよいかかわからない」とおっしゃるご家族が増えているという現場スタッフの声を受けて始めたサービスです。

かつて葬儀や法要は村や町会単位で施行されており、家族の役割は故人を悼むことだと言っても過言ではありませんでした。ところが、都市を中心に地域の機能が崩壊しつつある昨今では、家族が葬儀の準備と施行の役割を担わなければなりません。

しかしながら、核家族化に伴い、葬儀を経験したことのないご家族が多くいらっしゃいます。葬儀の準備は、限られた時間のなかで、宗派や規模、スタイルなど、大切な人が亡くなって間もないご遺族の意向を一つひとつ伺いながら行うのですが、ご遺族の正しい理解なしに進められる、ということが現実には起こっているのです。

たとえば、最近メディアで取り上げられることの多い「家族葬」をとってみても、費用を抑えて簡素に施行するというメリットばかりが強調されていますが、デメリットを知らずに選択し、

後悔するご遺族の話をよく耳にします。故人の遺言で「家族葬」を選んだあるご遺族は、後に訃報を耳にした故人の知人・友人が線香をあげに自宅を訪れるという状態が1年以上

も続き、「こんなことならば通常の通夜と告別式をして皆さんにお知らせすればよかった」とおっしゃっていました。一度きりの葬儀に悔いを残さないためにも、セミナーでは葬儀本来の役割を知っていただくとともに、生前の情報収集や生前契約など、いざというときに相談しやすい環境を整える必要性についてお伝えしています。

セミナーを介した交流は、いざ葬儀を依頼したいと思ったときに担当させていただくスタッフとご家族がお互いをよく知る良い機会にもなっています。時にはご家族の一員となり、ご家族に代わって葬儀を執り行うこともあるからこそ、信頼関係が必要となります。そして、生花の選択や、お棺に入れる品一つとっても、故人の好みや願いを深く理解することで、故人そしてご家族に合ったサービスを提供することができるのです。



文化的側面を保ちながら、 時代に合ったサービスを創出

墓参りや法事・法要、仏壇で手を合わせることを一つとっても、3年、5年と年月をかけて一つずつこなしていくうちに心が癒え、気持ちに区切りがつき、その先に続く人生を前向きに考えることができるようになります。葬儀とは、私たちの先人が築きあげてきた、精神を支えるための生活様式、つまり、文化なのです。けれども、私たちは、そうした背景を忘れ、文化に親しみがないという理由で、安易に切り捨ててしまいがちです。

現代における葬祭事業は、ご遺族や故人の様々な状況を理解したうえで、求められている葬儀を提案し、悩みを解決する、ソリューションビジネス(問題解決型ビジネス)でなければなりません。そして、この事業の発展に欠かせないのが、相手の気持ちを自分に置き換えて感じることのできる共感性、相手の望みや願いを叶える提案力をもった人材にほかならないと私たちは信じています。当社グループには現在、一定年数の実務経験を積んだ上に知識と実技のテスト(厚生労働省認定「葬祭ディレクター技能審査」)に合格した211名の葬祭ディレクターが在籍しています。葬儀や宗教に対する正しい知識を習得することで提案の幅は格段に広がり、優位性のあるサービスを実現しています。





公益社へ葬儀依頼すると、ここが違う！

お客様よりいただいた感謝の声をご紹介します。

経験とノウハウが違う

葬儀や仏事の知識をもとに、わかりやすく説明し、ご家族の状況に応じたアドバイスをを行います。

- すばやく、誠実に対応いただきました。今回のように葬儀後のことまで滞りなく行うことができたのは初めてです。(東京都/女性)
- 分からないことばかりだったのですが、どんな些細な質問にも一つひとつわかりやすく説明して下さったので安心してお任せすることができました。(大阪府/男性)
- 無理なお願いにも快く対応して下さり、とても助かりました。(奈良県/女性)

接客対応が違う

スタッフ全員が、誠実と思いやりの心を大切にしています。

- 皆さん礼儀正しく、質の高い対応が印象に残っています。全員が同じ心でサービスに徹していらっしゃるのが伝わってきました。(大阪府/女性)
- 困った時、どのスタッフに声をかけても親身に應對して下さいました。ここまで丁寧にしてもらえるのかと感動しました。(兵庫県/女性)

サービスの質が違う

生花祭壇は、最も良い状態でご覧いただけるよう花材の状態に細心の注意を払い、花の特徴を生かした高い装飾技術で祭壇をお作りしています。

- お花の祭壇が息を飲むほど素晴らしく、感激しました。(大阪府/男性)
- 祭壇のお花がとても美しく、また品の良いアレンジでした。(神奈川県/女性)

会館内の親族控室や安置室は、故人のおそばでゆっくりとお休みいただけるよう設備が整っています。清潔な洗面室および浴室も備えています。

- 遠方から訪れた親戚に会館内で一晩を過ごしてもらったのですが、大変評判が良かったです。(東京都/男性)

付加価値のサービスがある

お客様のご要望をつかみ、心を込めた「ホスピタリティ」あふれるサービスを実現いたします。

- 火葬場に向かう途中に実家の近くを通っていただき、満開の桜を見ることができました。担当の方の配慮だったと後日知りました。(大阪府/男性)
- ゴルフが趣味だった亡父。お棺にゴルフクラブを入れてあげたかったけれど、無理だとあきらめていた私に、担当の方が紙でできたゴルフバッグとクラブをそっと手渡してくれました。(大阪府/女性)

エンバーミング(故人のお元気だったころのおもかけを取り戻す科学的な技術)をご利用いただけます。

- 亡父は病院生活が長かったので、最後にお気に入りの服を着せてあげたいと思いました。エンバーミングをしてもらったので、着せてあげることができてよかったです。(大阪府/女性)
- エンバーミングがあったおかげで、海外に住む息子たちが帰国するのを待って、家族そろって葬儀を行うことができました。(神奈川県/男性)

見積りが違う

お客様が大切になさっているものを優先してお見積りをご提示いたします。

- 価格は決して安くはないかもしれませんが、全体のサービスに大変満足することができたので、結果的にお願いしてよかったと考えています。(東京都/男性)
- 打ち合わせの際、限られた予算の中でアドバイスをしていただけただけのが助かりました。(大阪府/女性)

葬儀後のサポートが違う

葬儀後もお客様の最良のパートナーとして様々なサポート(諸手続きのサポート、法事・法要のお手伝い、仏壇・仏具のご案内、グリーフケア、ライフサポート)を行っています。

- 葬儀はもちろんのこと、アフターケアがよく行き届いていました。公益社へ葬儀を依頼してよかったです。(大阪府/女性)
- 葬儀後の諸手続きに関することを、わざわざ説明しに来てくださいました。感謝申し上げます。(東京都/女性)
- 悲しみと不安の日々が続いていたときに、「ひだまりの会」より参加のお誘いをいただきました。最初は躊躇しましたが、事務局の方から優しく背中を押されて、おそろおそろ出席いたしました。そこで私と同じ痛み、心境の方がいらっしやることを知り、少しずつではありますが前を向いて歩んでゆく決心ができました。(大阪府/男性)

セレモニーとしての葬儀ではなく、故人を尊厳あるかたちでお送りし、遺族、故人の友人、知人の悲しみをケアする役割を担う葬儀をお客様一人ひとりに応じて実現しています。

連結財務情報

連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)		前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
[資産の部]			[負債の部]		
流動資産	4,450	3,828	流動負債	3,202	2,486
現金及び預金	3,215	2,697	営業未払金	752	516
営業未収入金	597	469	短期借入金	6	54
商品及び製品	155	139	1年内返済予定の長期借入金	617	572
繰延税金資産	285	264	賞与引当金	448	416
その他	196	256	その他	1,378	927
固定資産	21,722	21,501	固定負債	3,346	3,126
有形固定資産	18,621	18,398	社債	1,500	1,500
建物及び構築物	7,430	7,210	長期借入金	1,225	939
土地	10,813	10,815	その他	620	687
その他	377	372	負債合計	6,548	5,613
無形固定資産	1,033	918	[純資産の部]		
投資その他の資産	2,067	2,185	株主資本	19,623	19,717
資産合計	26,172	25,330	資本金	2,568	2,568
			資本剰余金	5,488	5,488
			利益剰余金	12,580	12,673
			自己株式	△ 1,013	△ 1,013
			純資産合計	19,623	19,717
			負債純資産合計	26,172	25,330

連結損益計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 〔平成23年4月1日～ 平成23年9月30日〕	当第2四半期連結累計期間 〔平成24年4月1日～ 平成24年9月30日〕
営業収益	8,865	8,400
営業費用	7,210	7,102
営業総利益	1,654	1,297
販売費及び一般管理費	893	819
営業利益	761	477
営業外収益	20	19
営業外費用	28	27
経常利益	754	469
特別利益	0	-
特別損失	10	196
税金等調整前四半期純利益	743	469
法人税、住民税及び事業税	371	279
法人税等調整額	21	△ 15
四半期純利益	351	205

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 〔平成23年4月1日～ 平成23年9月30日〕	当第2四半期連結累計期間 〔平成24年4月1日～ 平成24年9月30日〕
営業活動による キャッシュ・フロー	630	△ 24
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 206	△ 62
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 450	△ 429
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△ 26	△ 517
現金及び現金同等物の 期首残高	2,386	3,215
現金及び現金同等物の 四半期末残高	2,360	2,697

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

Financial Highlights
連結業績の推移

第2四半期 期末

1 資産

流動資産は、現金及び預金が5億17百万円、営業未収入金が1億28百万円減少したことを主な要因として、6億21百万円減の38億28百万円となりました。固定資産は、不動産信託受益権が1億14百万円増加した一方、減価償却費の計上等により有形固定資産が2億22百万円、のれんが1億3百万円減少したことを主な要因として、2億20百万円減の215億1百万円となりました。

2 純資産

四半期純利益2億5百万円を計上した一方、配当金を1億12百万円支払った結果、利益剰余金が増加し、純資産合計は93百万円増の197億17百万円となり、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ2.8ポイント増の77.8%となりました。

3 営業収益

グループの中核である公益社において一般葬の葬儀単価は前年同期比1.9%向上したものの、葬儀件数が前年同期比4.5%減少したことに加えて、香典を辞退する葬儀比率上昇および会葬者数減少の影響による返礼品販売収入の減収により、営業収益は前年同期比4億65百万円減収の84億円となりました。

4 営業利益

営業費用が前年同期比1.5%減少、販売費及び一般管理費が前年同期比8.3%減少となったものの、営業収益の減収をカバーしきれず、営業利益は、前年同期比2億83百万円減益の4億77百万円となり、営業利益率は2.9ポイント悪化して5.7%となりました。

5 キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益4億69百万円、減価償却費3億56百万円、売上債権の減少額1億28百万円、のれん償却額1億3百万円等により増加した一方、法人税等の支払いによる支出6億51百万円、仕入債務の減少額2億36百万円等による減少により、24百万円の資金減となりました。

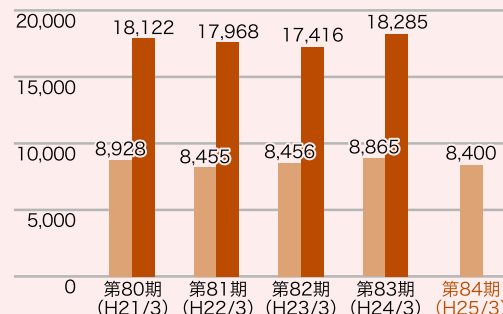
投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出74百万円等による減少により、62百万円の資金減となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済による支出3億31百万円、配当金の支払額1億12百万円等による減少により、4億29百万円の資金減となりました。

以上の結果、当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ5億17百万円減少し、26億97百万円となりました。

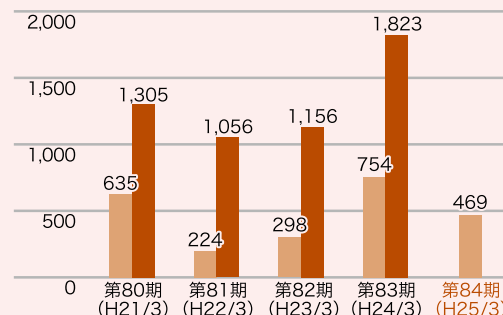
営業収益

(単位:百万円)



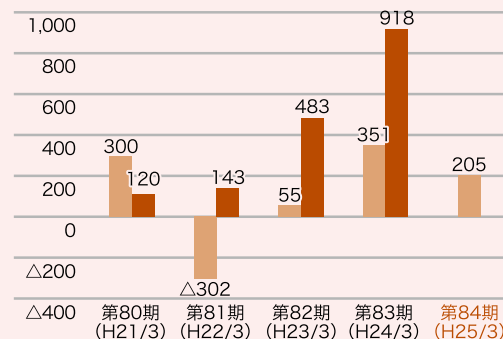
経常利益

(単位:百万円)



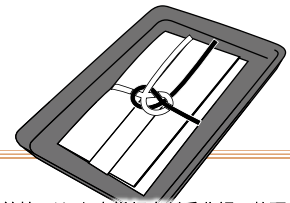
四半期(当期)純利益

(単位:百万円)



(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

知っておきたい豆知識 vol.4



公益社では、お客様担当が香典帳の整理からご要望やご予算に合わせた商品選びまで、一貫してお手伝いさせていただきます。

香典辞退の葬儀のメリット・デメリットを考えてみましょう。

最近、葬儀で受付に香典辞退の旨を伝える看板を見かけることが多くなりました。地域差があるので、香典辞退の考え方が広がっていないエリアもありますが、特に関西圏では香典辞退の葬儀が増えています。家族や近親者のみの葬儀の場合に、香典を辞退することが多いです。

家族だけで気兼ねなく葬儀を行いたい、返礼品等の手配など気を遣うことを避けたい、とのご家族の意向で香典を

辞退されるケースが多く、また、親戚の葬儀が香典辞退だったので、足並みを揃える、ということもあるでしょう。葬儀の準備や葬儀後のことを考えると、実施しなければならぬことがたくさんあり、そうした大変な状況で負担の軽減というメリットがあります。しかしながら、そのことが優先されることでのデメリットもあります。

たとえば、ご家族が生前故人と縁のあった方々と接点を持つ貴重な機会が失われます。そして、参列する側は、故人

への思いをかたちに表すことができず、気持ちの整理がつかないこともあります。また、参列できない場合に香典だけでも贈りたいと思っても、贈ることができないので困ることがあります。

そのほか、ご家族にとって急に葬儀費用を用意しなければならないので、香典を辞退した場合の方が経済的な負担を感じるようになります。これらメリット・デメリットを考慮して、慎重に香典について決めることをお勧めいたします。

株主優待制度の廃止に関するお知らせ

当社は、株主優待制度として、毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載または記録された、100株以上ご所有の株主様を対象として、一律に3,000円相当の「花とみどりのギフト券」の贈呈を実施してまいりました。

しかしながら、株主の皆様に対する公平な利益還元の方という観点から慎重に検討を重ねました結果、平成24年11月8日開催の取締役会において、株主優待制度を廃止することを決議いたしました。

【株主優待制度廃止の時期】

平成24年3月31日(前期末)現在の株主名簿に記載または記録された100株以上ご所有の株主の皆様への贈呈をもちまして廃止とさせていただきます。

今後も当社は、連結業績や財政状況、中期的な事業拡大のための戦略投資等を勘案し、持続可能で安定的な配当の実施並びに業績の向上に全力で取り組んでまいりますので、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

会社概要

2012(平成24)年9月30日現在

商号	燦ホールディングス株式会社
本社所在地	大阪本社 〒541-0045 大阪市中央区道修町3丁目6番1号 京阪神御堂筋ビル8階 TEL:06-6208-3331(代表)
	東京本社 〒107-0062 東京都港区南青山1丁目1番1号 新青山ビル西館14階 TEL:03-5770-3301(代表)
創業	1932(昭和7)年8月
資本金	25億6,815万円
事業内容	持株会社事業、不動産事業、管理業務受託事業
グループ会社	葬祭事業

株式会社公益社 <首都圏・近畿圏>
株式会社葬仙 <山陰地方>
株式会社タルイ <兵庫県南部>

葬祭関連事業

株式会社デフィ
生花・料理の提供
日本料理レストラン「なごみ庵きたはま」の運営

エクセル・スタッフ・サービス株式会社
セキュリティ業務・清掃・施設管理の受託

役員

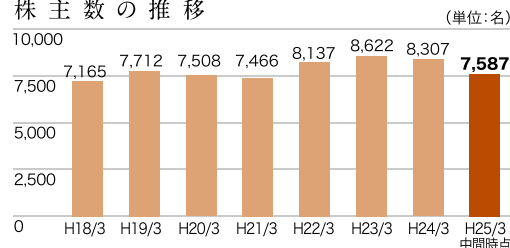
2012(平成24)年6月26日現在

代表取締役会長	播島 幹長
代表取締役副会長	小西 幸治
代表取締役社長	古内 耕太郎
取締役副社長	播島 聡
取締役副社長	野呂 裕一
常務取締役	鈴木 敏一
常務取締役	的羽 元司
取締役	大井 信三
社外取締役	棚橋 康郎
常勤監査役	三神 明彦
社外監査役	森野 實彦
社外監査役	秋山 哲
社外監査役	榎本 圭吾
常務執行役員	宮島 康子
執行役員	森 弘幸
執行役員	大西 健二
執行役員	山本 浩
執行役員	宮崎 年容
執行役員	小林 大介

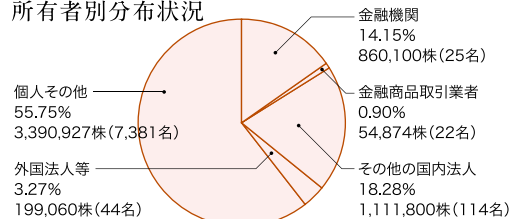
株式の状況

2012(平成24)年9月30日現在

発行可能株式総数 21,000,000株
発行済株式の総数 6,082,008株
株主数の推移



所有者別分布状況



※上記構成には当社所有の自己株式465,247株(7.65%)は含まれません。

